加西市
播磨国
風土記の里と石仏と

1300年の時空を超えてここに『播磨国風土記』が完成

『播磨国風土記』は、奈良時代初期の713（和銅6）年5月の官令により作成が命じられた地誌で、715年頃に編纂されたものと見られています。この日本最古の地誌に、加西市は賀毛郡として登場します。

加西市には日本最古の石仏「古法華石仏」をはじめ、白鳳時代の石仏が現存しています。しかし、『播磨国風土記』にはなぜか仏教施設や石仏についての記述がありません。ゆえに『播磨国風土記』が未完成（草稿）だったのではないかという歴史ミステリーが存在しています。

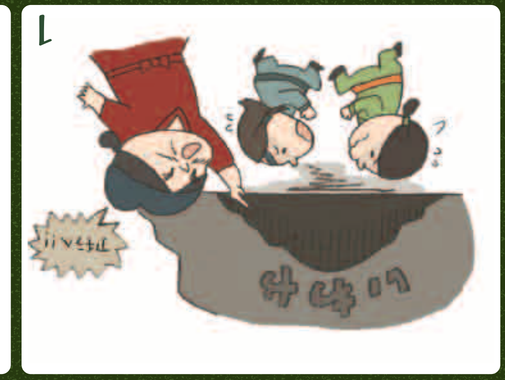
加西市の長や高室には石の切出し場があり、古墳時代ここで切出された石は石棺として使われていました。また、『播磨国風土記』に多く登場する大国主命（伊和大神）は国作りの神として知られていますが、岩（石）の神だったとも伝えられています。西播磨に石神信仰が深く広がっていたのは大国主命が少なからず影響しているようです。『播磨国風土記』に記されている加西市の「粳岡」や「飯盛嵩」の記述にも大国主命が登場しますので、当時の加西の人々にも当然石に対する畏怖と信仰の思いが芽生えたとしても不思議ではないでしょう。人々の心の拠り所だった石仏は時代を経るごとにその数を増やしていきます。

1300年の時を経て今『播磨国風土記』に石仏の記述を加えることで、淡々と過去の出来事を伝達するだけの風土記が、人々の喜怒哀楽を未来に伝える温もりのある「地誌」として完成すると考えます。

写真：五百羅漢（北条町）

播磨国風土記の里 加西
加西をめぐる、時代を翔ぶ。

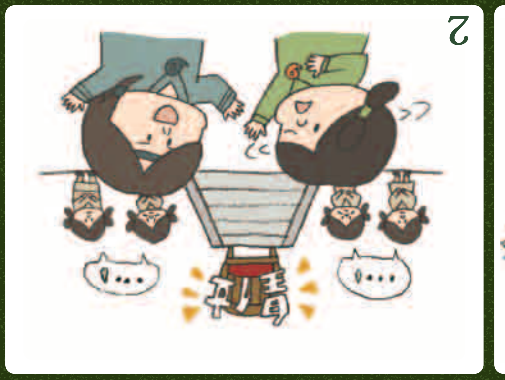
二人の皇子と根日女伝説



1

『播磨国風土記』の中に伝わる１５００年も前のお話です。安康天皇３(４５６)年１０月、二人の皇子・意奚(おけ)と袁奚(をけ)の父・市辺押磐皇子(いちのべおしわのみこ)が皇位継承争いから大泊瀬皇子(おおはつせせみこ)(後の雄略天皇)に近江の国で殺されてしまいます。

日下部連意美(くさかべのむらじおみ)は二人の皇子に災いが及ばないように、志染の里まで連れきて窟屋(いわや)に身を隠させます。しかし、意美は自らがおかした罪の重いことをさとり、馬を放ち武器を焼き捨てて自殺してしまいます。



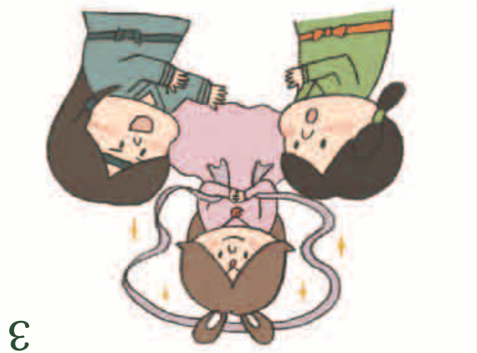
2

残された二人の皇子は、あちこちに身を隠しながらさ迷い、志染村首・伊等尾(いとみ)の家で牛飼いの下男として仕えることになりました。

数年が経ったある日、伊等尾(いとみ)が催す新築の祝いの宴で歌を所望された兄弟は、互いに譲り合った後、弟の袁奚(をけ)が歌詞で自分たちの正体を明かしました。

淡海は水たまる国　大和は青垣　青垣の大和にいましし市辺の天皇の　みあなすえ　やっこらま

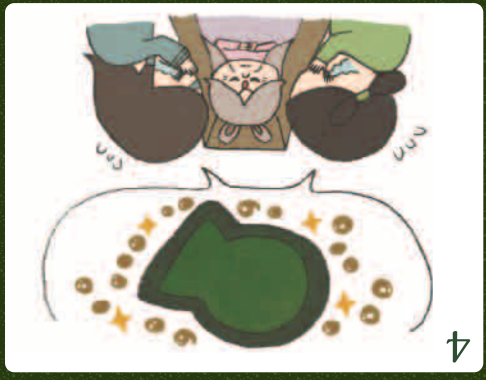
(近江は水の豊かなところ、大和は美しい山々があるところ　その大和の市辺の天皇の　私たちは子供なのですよ　みなさん)



3

国司の小楯(おだて)は大いに喜び、これを都に報告。二人の皇子は都に迎えられ、後に弟の袁奚(をけ)が顕宗(けんぞう)天皇になり、つぎに兄の意奚(おけ)が仁賢(にんけん)天皇に即位しました。

二人の皇子は再び志染にもどり高野の宮におられた時、針間鴨国(はりまかもくに)の国造許麻(くにのみやつここま)の娘・根日女(ねひめ)という美しい娘と出会い求婚します。



4

根日女はこころよく受け入れますが、二人はお互いに譲り合っているうちに年月は流れ、根日女は結ばれることなく年老いて死んでしまいます。その話を聞いた兄弟は大いに悲しんで、「朝日夕日に陰になることのない土地に墓をつくり、根日女を埋葬し、玉をもって墓を飾ってあげよう」と命じました。

その墓が、加西市玉丘町にある玉丘古墳なのです。

◄ ななじ眺著『ねひめのとき～根日女伝説×「パフェちっく！」～』

ストーリー

おばさんちがある加西市を訪れた新保壱と新保大也は従兄弟であり、同じ女の子に思いを寄せている。北条鉄道に揺られながら、その関係は、加西に伝わる根日女伝承と同じだと壱が話し出す…。

遥か1500年前に播磨国賀毛郡を舞台にくりひろげられた愛の物語。

加西市に伝わる根日女伝説をマーガレット（集英社）に連載中の加西市出身の人気漫画家ななじ眺さんに依頼し漫画本にしました。根日女と二人の皇子の関係が代表作『パフェちっく！』の３人の関係に近いことから、人気キャラクターが登場しています。全国の書店、インターネットで販売中。

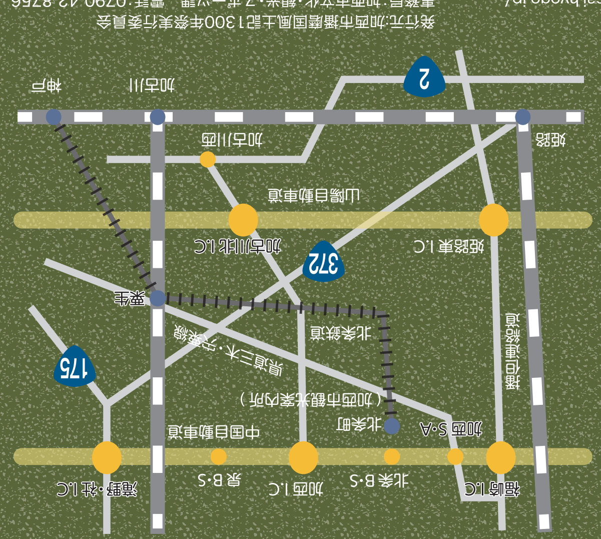
加西市こども狂言塾 ►

『播磨国風土記』が編纂されて1300年を迎えるのに合わせ、テレビや映画などで活躍される狂言師の野村萬斎さんの監修により狂言「根日女」を創作し、「加西市こども狂言塾」を平成26年度より立ち上げました。播磨地域の子どもたちが野村萬斎さんや万作の会の狂言師の方々から直伝で学び、日本の古典芸能である狂言の力を借りて、地元に残る根日女伝説を演じ、伝承しています。地元の市民ボランティアの方々による「こども狂言塾応援隊」の皆さんとともに、毎月2回のお稽古を実施し、各種イベントで公演しています。

加西市観光案内所へのアクセス

住所：兵庫県加西市北条町北条28-2 北条鉄道北条町駅内　電話：0790-42-8823

車　姫路から30分　神戸から60分　**電車**　JR加古川から50分　※粟生駅乗換え



播磨国風土記の里 加西HP
http://www.fudoki1300.city.kasai.hyogo.jp/

発行元:加西市播磨国風土記1300年祭実行委員会
事務局:加西市文化・観光・スポーツ課　電話:0790-42-8756

風土記ゆかりの地といにしえの人々の祈りを今に伝える石仏たち

加西市に残る播磨国風土記由来の地

A 上鴨・下鴨の里

品太天皇の時代、つがいの鴨が巣を作って卵を産んだところ。あとで上と下の２つの里に分かれた。　（在田・西在田地区）

B 鴨坂・鴨谷

品太天皇の命令で放たれた矢が、当たったまま２羽の鴨が山の峰を越えて飛んで行ったところ。　(鴨谷町・鴨坂)

C 煮坂

矢で射とめた鴨を羹(あつもの)にして煮たところ。賀毛郡と託賀郡の郡境だった峠。　(河内町・二か坂)

D 修布の井戸

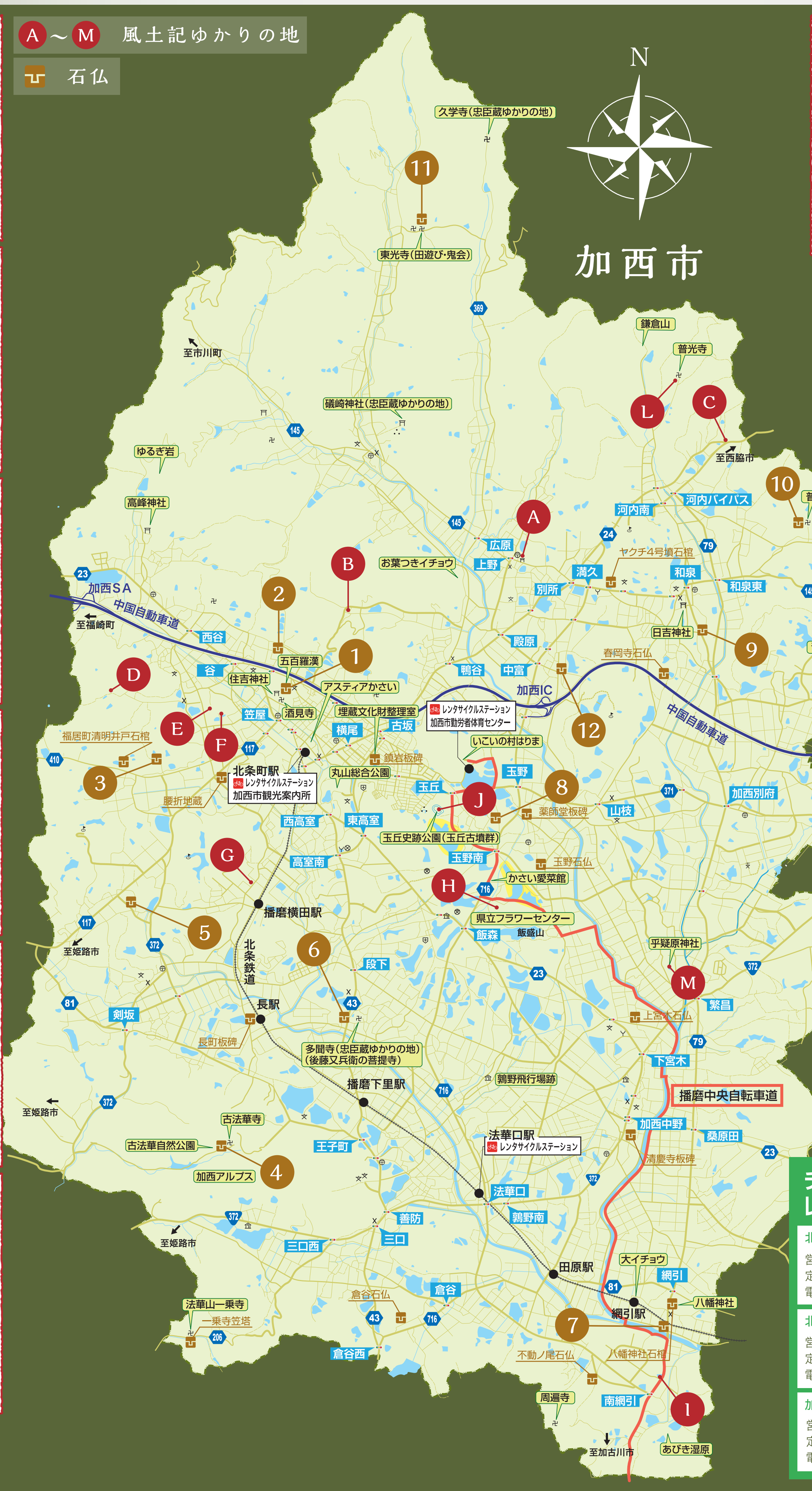
水を汲もうとした女性が、吸い込まれた井戸が修布の井戸。現在も残っている。　(吸谷町・修布の井戸)

E 鹿咋山

品太天皇が狩りに出た時に、自分の舌を噛みながら歩く白い鹿に出会った山。　(北条町黒駒・女鹿山)

F ホムチベの井戸

品遅部（ほむちべ）たちの祖先にあたる前玉が、品太天皇（応神天皇）から賜った土地。そこに残っている井戸。　（北条町黒駒）


Ⓐ～Ⓜ 風土記ゆかりの地
石仏
N
加西市
久学寺（忠臣蔵ゆかりの地）
東光寺（田遊び・鬼会）
369
至市川町
磯崎神社（忠臣蔵ゆかりの地）
145
ゆるぎ岩
高峰神社
23
加西SA
至福崎町
中国自動車道
西谷
谷
住吉神社
五百羅漢
アスティアかさい
酒見寺
笠屋
埋蔵文化財整理室
横尾
古坂
レンタサイクルステーション
加西市勤労者体育センター
いこいの村はりま
福居町清明井戸石棺
410
117
北条町駅
レンタサイクルステーション
加西市観光案内所
腰折地蔵
鎮岩板碑
丸山総合公園
玉丘
玉丘史跡公園（玉丘古墳群）
西高室
東高室
高室南
玉野南
かさい愛菜館
716
県立フラワーセンター
飯森
飯盛山
播磨横田駅
至姫路市
372
北条鉄道
段下
43
長駅
剣坂
81
長町板碑
多聞寺（忠臣蔵ゆかりの地）（後藤又兵衛の菩提寺）
播磨下里駅
鶉野飛行場跡
古法華寺
古法華自然公園
加西アルプス
王子町
法華口駅
レンタサイクルステーション
法華口
鶉野南
善防
三口
三口西
倉谷石仏
倉谷
倉谷西
法華山一乗寺
一乗寺笠塔
206
田原駅
大イチョウ
網引
八幡神社
網引駅
不動ノ尾石仏
八幡神社石棺
周遍寺
南網引
至加古川市
あびき湿原
鎌倉山
普光寺
至西脇市
河内南
河内バイパス
普明寺
奥山寺
24
79
広原
上野
ヤクチ4号墳石棺
満久
和泉
和泉東
別所
八王子神社
日吉神社
青野運動公苑
至加東市
殿原
春岡寺石仏
鴨谷
中富
加西IC
お葉つきイチョウ
玉野
薬師堂板碑
山枝
371
加西別府
玉野石仏
乎疑原神社
繁昌
上宮木石仏
下宮木
播磨中央自転車道
加西中野
桑原田
清慶寺板碑
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

G 三重の里

女性がタケノコを食べたところ、体が三重に折れ曲がって座り込んでしまったことから名づけられた。　（北条町から下里川流域）

H 飯盛嵩・楢原の里

大汝命がご飯を盛ったことから名づけられた。県立フラワーセンターの園内に位置し、展望台から南の方角に見える一帯が楢原の里と呼ばれる。　(豊倉町・飯盛山)

I 粳岡

大汝命（大国主）が稲を下鴨里でつかせたところ、飛び散った糠がこの岡に飛んできたことから名づけられた。　(網引町・糠塚山)

J 玉丘・玉野

後の23代顕宗天皇と24代仁賢天皇となるオケ、ヲケの2人の皇子と根日女（ねひめ）の恋物語が残る玉丘古墳とその村々。　（玉丘町　玉丘古墳・玉野町）

K 雲潤の里

雲潤の太水の神と丹津日子神のかけあいの中で、飽きたという意味の「倦み」が「雲弥(うみ)」となって、転じて雲潤が宇仁になったと伝わる。　（宇仁地区）

L 河内の里

海神である住吉大神が鎌倉山に降臨し、新しい農業技術をもたらしたところ。頂上から見える一帯が河内の里と呼ばれる。　(河内町・鎌倉山)

M 川合の里

乎疑原神社の梵鐘に、「播州賀西郡西河合郷」とあり、小野市の河合地区からこのあたりまでが川合の里と呼ばれた。　（繁昌町・乎疑原神社）

チャリまちかさい レンタサイクルステーション

北条鉄道北条町駅

営業時間：7:00～20:00
定休日：なし 加西市北条町北条28-2
電話：0790-42-0036

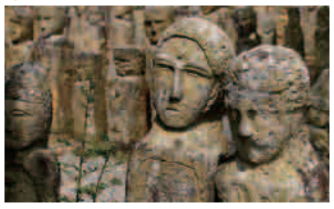
北条鉄道法華口駅

営業時間：10:00～16:00
定休日：月曜日・金曜日 加西市東笠原240-5
電話：0790-20-7368

加西市勤労者体育センター

営業時間：9:00 ～ 16:00
定休日：水曜日 加西市玉野町1124
電話：0790-47-1420

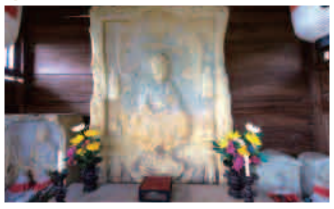
1 五百羅漢



大分県耶馬渓山、山梨県吉沢の羅漢とともに全国的に有名な羅漢石仏。桃山時代から江戸時代初期頃のものと思われる石仏群は404体を数えます。素朴で自由に表現されており、作者も造仏の意図も不明です。神秘と謎を秘めたまま羅漢の杜に佇んでいます。

¥ 200円（拝観料）　北条町北条　羅漢寺

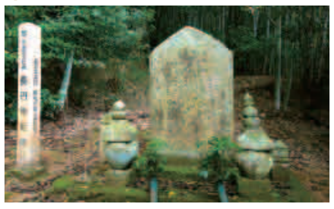
2 小谷石仏



家型石棺の蓋石の内側に阿弥陀座像と六体の菩薩像を薄肉彫りしたもので南北朝時代の康永4（1345）年作と刻まれています。石仏の下腹部になぜか濡れたようなシミがあり、「夜ばりこき（寝小便平癒）地蔵」と呼ばれ地域の人々に信仰を受けてきました。

北条町小谷　地蔵堂

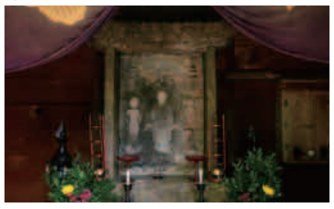
3 長圓寺板碑



山形に切り整えられた板碑の上方に阿弥陀如来を表す種子（しゅじ：梵字）と、右下には観音菩薩、左下には勢至菩薩の種子が表されています。室町時代の製作と思われ、銘文には時の僧「宥盛」が逆修（自分の死後の極楽往生のために生前に行う仏事）のため造立したと記されています。

福居町　長圓寺

4 古法華石仏

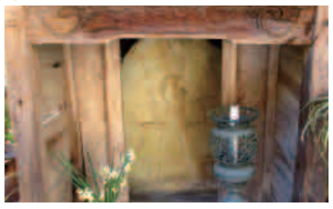


白鳳時代に作られた日本最古の石仏。板石の中央に如来倚像（台座に腰を掛けた姿）、その両脇には菩薩立像が描かれています。天蓋、三重塔のほか菩薩が乗る蓮台の下の二頭の獅子等も見事で、他では類を見ないほど精緻に彫られています。

西長町

¥ 200円（拝観料）※観光案内所に要予約

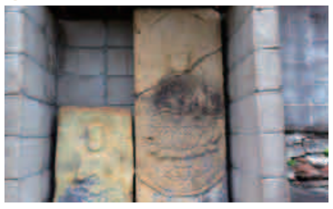
5 地蔵寺異形石仏



慶安3（1650）年に造像された地蔵菩薩像。右手に錫杖、左手に宝珠を持った菩薩の肩は大きく張っており、裃(かみしも)を着けたようにも見えたり、ロウソクを持ち翼のある天使のようにも見えます。表現も表情も個性的で不思議な魅力を放っています。

山下東町　地蔵寺

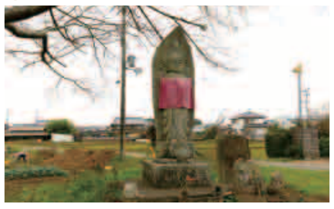
6 大村石仏



二基おかれた石仏のうち向かって右の像が阿弥陀如来坐像で、刻銘から康永元（1342）年の造立とわかります。石材は組み合わせ式石棺の側板と考えられています。一方、宝冠を被り胸前で合掌する左側の像は勢至菩薩と考えられています。

大村町

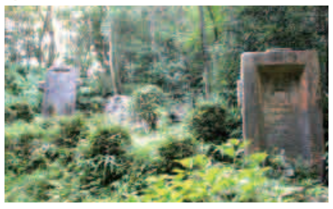
7 河童封じのお地蔵さん



嘉永2（1849）年に造立された高さ約2mの巨大な石仏で、万願寺川を臨むように立っています。かつて川のこの辺りには深い淵があり、川遊びをする子供が度々溺死しました。村人は河童が子供を川に引き込んだと恐れ、河童から子供たちを守るためにこの地蔵を立てたと伝わっています。

網引町

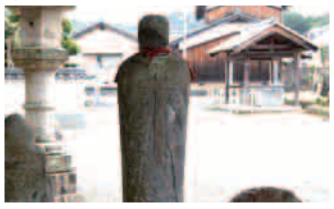
8 山伏峠石棺仏



右の1基は大きな家型石棺の蓋石に蓮華座上に定印の阿弥陀坐像が彫られています。左の石棺仏は、左右各二ヶ所に縄掛突起のある長持形石棺の蓋石の内側に地蔵菩薩半跏像と左右に六地蔵を半肉彫りしています。左右に造立年の暦王元年(1338年)の銘がかすかに見えます。日本を代表する石棺仏です。

玉野町

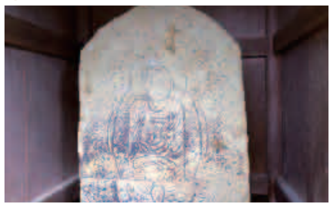
9 大日寺背面十字架地蔵



背面に十字が大きく刻まれた全国的にも極めて珍しい石仏です。地元の凝灰岩の石材を利用し作られており、享保から寛保年間（1716～43）の造立と考えられています。背面の十字状の意匠からキリシタン信仰に関わるものと考えるむきもあります。

野上町　大日寺

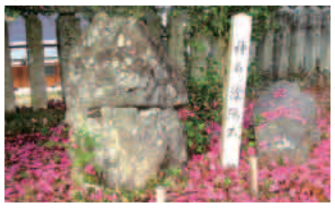
10 普明寺釈迦十三仏像



板碑状の中央に薄肉彫りで仏像が表され、その頭上には「釈迦」と刻銘されています。左右には十二尊の種子（尊仏を表す梵字）が刻まれていており、釈迦と併せて十三仏を表現しています。時の僧が逆修供養として天文9（1540）年に発願造立したとされています。

大工町　普明寺

11 万願寺陰陽石

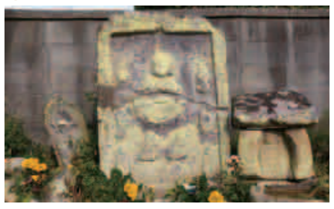


若一神社境内に一対の自然石が祀られています。男女のシンボルの形をしており陰陽石と呼ばれています。この神石をさすりながらお願いをすると、子宝に恵まれると古くから人々に信仰を受けてきました。

隣接する東光寺にも一組の陰陽石が祀られています。

上万願寺町　若一神社

12 観音堂かんじんさん



高室石を整形して阿弥陀如来や六地蔵等を半肉彫りして表しています。この石仏には七尊のほか、発願主と思われる男女の座像や水瓶が彫られたりしており多様な構成になっています。製作年代は十四世紀後半と考えられています。地元の人から「かんじんさん」と呼ばれ親しまれています。

中富町　観音堂